

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット®認証申請書

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 榛南地域磯焼け対策推進協議会

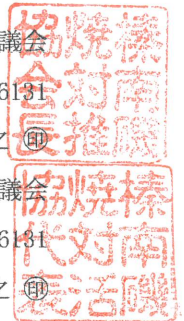
住所：静岡県御前崎市港6131

氏名：会長 藪田 国之

(共同申請者) 榛南磯焼け対策活動協議会

住所：静岡県御前崎市港6131

氏名：代表 藪田 国之



Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

| | |
|----------|--------------------|
| プロジェクト番号 | 202211JBCA00007 |
| プロジェクト名称 | 榛南地域における藻場再生プロジェクト |

| | |
|---------------------|---|
| プロジェクト区分 (複数選択可) | 自然基盤 人工基盤 吸収源の新たな創出 吸収源の回復、維持、劣化抑制 |
| プロジェクト概要 | <p>対象海域は静岡県御前崎市・牧之原市・吉田町の2市1町に及ぶ沿岸海域であり、磯焼け以前はカジメ・サガラメによる約8,000haの藻場が形成されており、一続きの藻場としては国内最大とされていた。しかし、平成初期に部分的に磯焼けが発生した後、急速に藻場の衰退が進み海域全ての藻場が消滅してしまった。</p> <p>磯焼けを受け、平成8年度に近隣の関係市町（御前崎市、牧之原市、吉田町）と南駿河湾漁業協同組合（当時の吉田町漁業協同組合、坂井平田漁業協同組合、相良町漁業協同組合、地頭方漁業協同組合、御前崎漁業協同組合）が榛南地域磯焼け対策推進協議会を組織し、成熟した母藻の海域への投入等の活動を開始した。平成21年度には南駿河湾漁業協同組合（当時の吉田町漁業協同組合、相良漁業協同組合、地頭方漁業協同組合、御前崎漁業協同組合）と漁業者が榛南磯焼け対策活動協議会を組織し、両協議会が連携して、藻場の回復と、それに伴う温室効果ガス削減による地球温暖化防止に向け、カジメ、サガラメ種苗の移植、成熟した母藻の海域への投入、繁茂状況を確認するモニタリング、アイゴなどの藻食性魚類の除去等を行っている。</p> <p>静岡県による藻場造成事業とも連携し、これまで活動を続けた結果、平成30年には約870haものカジメ藻場を回復するに至った。現在は引き続きカジメ藻場の回復に向けた活動を行うとともに、いまだ回復していないサガラメ藻場の復活に向けた取組を開始している。</p> <p>このような活動の継続性をより確かなものとし、藻場の保全・回復活動の拡大と、それに伴う気候変動対策の推進、さらには一般の方々への藻場の重要性についての認知度向上を図るため、クレジットを取得することとした。</p> <p>得られたクレジットは、カジメ藻場のさらなる回復に向けた母藻投入量の増加や、種苗移植の実施、また、いまだ回復していないサガラメ藻場の復活に向けた母藻投入や種苗移植等の取組に活用する予定である。</p> |
| 申請対象期間に実施した活動の概要 | <p>①種苗の移植（榛南磯焼け対策活動協議会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サガラメ種苗を段ボールを使用した基質（8cm×8cm）に付着させた移植用基盤400基を作成し、作成した基盤を潜水により相良沖の海域に設置した。 <p>②母藻の投入（榛南磯焼け対策活動協議会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポアバッグを用いてカジメ、サガラメの成熟した母藻を海域に投入した。（サガラメ：9.2kg（50個）、カジメ：90kg（50個）） ・御前崎港周辺・御前崎沖にカジメ、相良沖にサガラメの投入を行った。 <p>③モニタリング（榛南磯焼け対策活動協議会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各活動区域において、潜水調査による定点観測を行い、藻場の状態を観察するとともに、モニタリング範囲ごとの平均被度を算出した。 <p>④藻食性魚類の除去（榛南地域磯焼け対策推進協議会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動海域付近の定置網、刺網により混獲された藻食性魚類の買取りを実施。 ・令和4年度の買取り量6813.0kg（アイゴ6,497.8kg、ニザダイ304.7kg、ブダイ10.5kg） |
| プロジェクト実施開始日 | 平成8年度～現在 |

| | | |
|------|-------------------------|---|
| 方法論1 | ①対象生態系面積の算定方法 | <p>【生態系】海藻 【藻場】アラメ場 【構成種】カジメ</p> |
| | ②クレジット認証対象期間 | 2022年04月01日～2023年03月31日 |
| | ③対象とする面積 | <p>【面積】 16.95 (ha) 【面積の算定根拠】 定点地点 被度面積 (ha) 相良沖 (中央) 1.05 相良沖 (シェルナース) 3.67 潜堤 (沖側) 1.95 潜堤 (陸側) 2.48 アシタカ岩 4.65 落居前 (北側) 1.75 落居前 (南側) 1.0 西防波堤 (北側) 0.4 ----- 合計 16.95</p> <p>【面積の資料】 対象生態系面積の算定方法に関する資料 R 5. docx</p> |
| | ④吸収係数 | <p>【単位面積あたりの吸収量】 4.2 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 桑江ら (2019)※の表-4に記載されているアラメ場の吸収係数 (4.2t-CO₂/ha) を用いる。 ※【参考文献】 桑江ら (2019) : 「浅海生態系における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」 土木学会論文集B2 (海岸工学), Vol. 75, No. 1, 10-20, 2019 ○吸収量算定方法 【算定した式】 活動量×吸収係数 【算定結果 (吸収量)】 16.95ha × 4.2t-CO₂/ha/年 = 71.19 t-CO₂ 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし</p> |
| | ⑤吸収量算定方法 | <p>【計算に利用した式】 式1 【算定結果 (吸収量)】 71.189 (t-CO₂)</p> |
| | ⑥確実性の評価 | <p>【対象生態系面積の評価】 85% (面積 : 16.95 (ha) × 評価 : 85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 70% (吸収係数 : 4.2 × 評価 : 70%)</p> |
| | ⑦調査時に使用した船舶の情報 | <p>【船舶の種類】 潜水士船 (206kW / 280PS 程度) 【台数】 1隻 【稼働時間】 27.00 (h) 【出力】 295.00 (kW) 【燃料の種類】 軽油 【CO₂排出量】 2.219 (t-CO₂)</p> |
| | ⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量 | <p>【CO₂吸収量】 0 (t-CO₂) 【設定した根拠】 相良沖海域・御前崎港周辺海域はもともと藻場が繁茂していたが、平成初期の磯焼けによって、藻場が完全に消滅した海域である。その後、県事業や、両協議会による種苗投入、藻場設置などの取組により繁茂領域が出現し、その後それぞれ維持されている状況にある。 そのため、ベースラインをいずれも0と設定することとした。 参考：伊豆分場だより第265号 (静岡県水産試験場伊豆分場) 【資料】 添付ファイルなし</p> |
| | ⑨クレジット認証対象の吸収量 | 40.139 (t-CO ₂) |

| | |
|------------------|-------------|
| 合計のクレジット認証対象の吸収量 | 40.1(t-CO2) |
|------------------|-------------|